

過程に注目する

大人の役割は重要

やりたくなる活動・得意なこと・好きなこと

~したい
子どもの
願い

矛盾・葛藤 ~したいけどできない

支えとなるもの

手応え 自信

子どものやり
たいことの芽、
変化してきて
いるところの
芽を見つける

自分で
自分から
自分が
を受けとめながら
一緒に考えていく

では、どうしたらいいか

日々の活動の中でできることは、

子どもとの関わりの中で、子どもを観察し記録を書く
仮説をたてて子どもと関わる

子どものことをわかろうとする
子どもから学ぶ

職員集団で検討する、話し合う

グループトーク②

事業所で行っている日々の記録について

- ・記録用紙は、どんな様式？量は？
- ・いつ書く？
- ・誰が書く？
- ・記録に関する事業所内のルールは何かある？
- ・書いた後、どのように活用されている？
.....など

記録を書くうえで大切なこと

- 遊び(活動)の最中にどんなところを見ているか、それをどう理解し 受けとめたかがわかる記録

「楽しんでいた」「調子が悪かった」では、わからない
時間の経過に沿って何をしたかだけでは、わからない

→視点を持って子どもを見ることで子どもの様子を具体的に書くことができるようになる

- 文章にすることで、自分の考えを省察したり、他者と共有しやすくなる
- 事実だけでなく、考察や気づきも書かれていると後から読んだときにそれが大事な情報になる
- 個人の記録だけでなく、活動の記録(評価)もあると、次に活かしていきやすい

事例② 言葉の遅れが主訴で来られたRくん(3歳児)の5か月間の変化

物の操作 ①出す・入れる

- ・ままごと遊びの食べ物を箱の中に入れていたり、床に転がったボールをひろって箱に入れる。
- ・ボールを樋に転がしてひろって箱に入れることを繰り返す。
- ・ままごとの食べ物を職員や他児に差し出す。
- ・器を選び、その中に粘土をちぎって入れる。
- ・棚に片付けてあった砂遊び用のカップをすべて出す。

物の操作 ② 出す⇔入れる

- ・器から他の器へ砂を移し変える。
- ・スコップですくって入れて、器がいっぱいになると出すことを繰り返す。
- ・箱から自分のカゴにボールを移し変えて、いっぱいになるとひっくり返すことを繰り返す。

物の操作 ③目的のある行動へ

- ・ペットボトルの蓋が落ちているのを拾って集める。
- ・たこ焼器の穴にペットボトルの蓋をひとつずつ入れていく。
- ・スコップで砂をすくってカップに入れ、それを水の中にポチャンと落とすことを繰り返す。
- ・カゴにボールをいっぱい集め、落とさないようにそっと運ぶ、
- ・ままごとの食べ物を包丁で切ってひっつけてを繰り返す。

模倣 ①大人の言葉・動作をまねする

- ・職員がカップに砂を入れて「ジャジャーン」と言いながら型抜きをすると、同じように「ジャジャーン」と言ってカップをはずす。

模倣 ②子どもの言葉・動作をまねる

- ・他児が走っていると、自分も一緒に走る。
- ・他児が話している言葉をまねしていう。
- ・他児がクッキーを目に当ててメガネに見立てると同じようにまねしてやってみる。
- ・追いかけてこのときに他児が隠れるのを見ていて、しばらくしてから自分も同じところに隠れる。

他児との関係

- ・他児が使っているものをとる。
- ・自分で自分に砂をかけ、近くにいた友達にも砂をかけ、お友達がそれに反応すると繰り返す行う。

大人との関係

- ・追いかけるのを期待して職員の顔をふりかえって見ながら走る。

集団の中で 一緒に

- ・まてまて遊びが楽しくなる。
- ・追いかけてこのときに他児が隠れるのを見ていて、あとから同じところに隠れる。

要求の伝え方 ①手を引っ張る

- ・おやつに誘うと職員の手を引っ張っておやつ部屋に連れて行く。
- ・園庭に行きたくなると職員の手を引っ張って連れて行く。
- ・追いかけてほしくて職員の手を引っ張る。
- ・カップに砂を入れて欲しくて、職員の手を引っ張る。

要求の伝え方 ②物を渡す

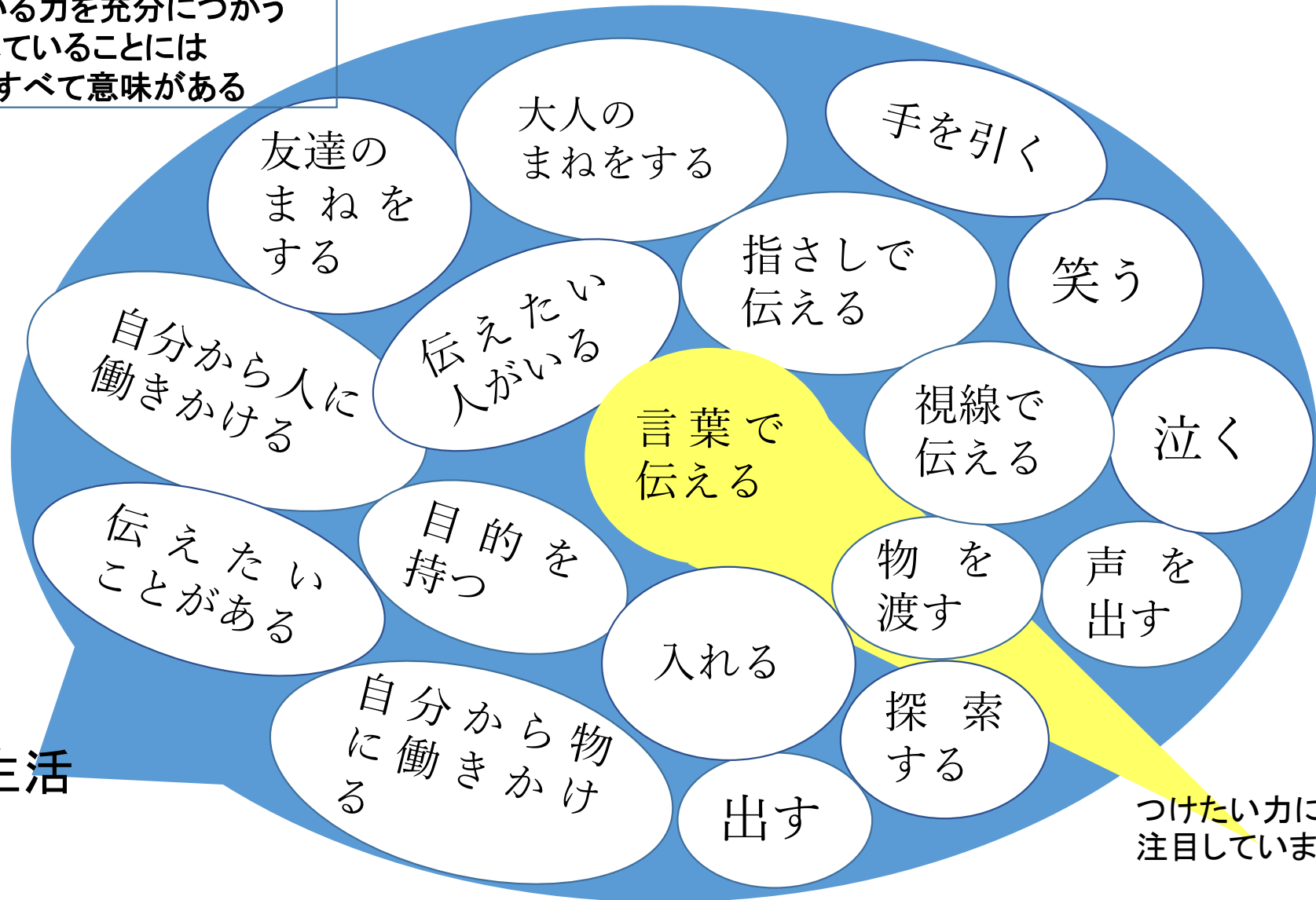
- ・砂を入れて欲しくて、職員にカップを渡す。
- ・ペットボトルを渡して、水を入れて欲しいことを伝える。
- ・初めのうちは、ジェット風船がしぼむとゴミ箱に入れに行っていたが、因果関係がわかるとしぼんだ風船を職員のところを持ってきて、空気入れも一緒にもっていく。

要求の伝え方 ③発声・指差し

- ・砂を入れて欲しい時に職員が近くに居ないと「ウニャウニャウニャ…」と怒り気味の発声をする。
- ・風船が入っている引き出しを指差して、抱っこを求め、風船遊びがしたいことを伝える。
- ・おやつの際にゼリーのふたを開けて欲しくて、「あけて」と言ってゼリーを職員に渡す。

- ・今持っている力を充分につかう
- ・子どものしていることには
すべて意味がある

遊び 生活



つけたい力にだけ
注目していませんか